石高神社報

第十八号

発行日　平成十二年十二月十五日
発行者　石高神社　宮司　高原　章兆
発行所　岡山市円山八五四―一

社務所建築の必要性について

近いうちに社務所の再建を計画しています。前の社務所は、大正三年に古材を使って建てたものと聞いておりますが、老朽化して床や屋根に穴があいて危険な状態になったため、平成元年に取り壊しました。それ以来、社務所が無い状況が続いています。当時は、社殿の屋根葺き替えをはじめとして、修理の必要な箇所が山積みになっており、建て替えができるような状況ではありませんでした。今回やっと順番が回って来たという次第です。社務所がなくなって一番困ったのは、物を置くところと作業場が無くなったことです。現在、物については釣殿と宮司宅に分けて置いてあり、作業は狭い宮司宅で行っています。

社務所は会社で言えば管理事務所に当たり、御神札を作ったり祝詞を書いたりして祭りその他の行事の準備をするところです。また、当社では社務所ではなく、「神饌所」という名目で神社庁に登録されており、神様のお供物を準備する所でもあります。こういった施設が整ってはじめて神社としての体裁が整ったことになりますが、石高神社くらいの規模の神社で倉庫も社務所もないような神社は他には見受けられません。

社務所があれば、そこから境内の様子も見えますし、参詣者の方々とも顔を合わせる機会も増えます。水道を引いて湯茶の設備をつくれば、ちょっとした休憩場所や会合場所としても使用可能です。また、平素お参りになられた方に対して御神札やお守りの授与にもより多く応対できるようになります。

そこで一階の地下部は倉庫とし、二階が湯茶の設備をもった和室という前の社務所に似た様式を考えております。長期にわたり社務所のない

状態が続きましたが、神社と氏子の皆様とのつながりを活性化させるためにも社務所のある神社を一日でも早く復元したいと願っています。その節はよろしくお願い申し上げます。

二十一世紀に向けて

日本人の生活の中には神道や仏教の精神が染みこんでおり、古代から神仏と共に生きてきました。日本人に限らず世界のどの民族にも神様がいます。特に日本人は草や木にも神を見つけて八百万（やおよろず）の神を祀った豊かな感性を持った民族だと言われています。しかし、一方で日本人は無信仰であるとも言われ、日常的には神をあまり意識することなく生活するようになってきています。仏教においても凶事以外は仏をあまり意識しなくなってきているように感じられます。

しかし、それは意図的に神様や仏様から離れているわけではなく、日常の生活とあまり密着しなくなって来ているからだと思います。そして、それは我々の生活が安定して神頼みをしなくても生活できるようになったことと、個人主義が浸透してきたことの影響が大きいように思われます。

最近多くなった神頼みとしては、交通安全がありますが、いつ死ぬかわからないという点では、程度の差こそあれ戦時中の出征兵士の戦勝祈願に匹敵するのではないでしょうか。最近まで我々は生まれてからずっと危険にさらされていました。このため、生まれてから七日、三十日、百日、七五三の祝い、老いては、古希、喜寿、米寿などと生き延びるごとに神仏に祈ってきました。日常生活においても五穀豊穣を祈り、大漁や海の安全を願い、戦時においては全国八万社の八幡宮に代表されるように戦勝祈願をしてきました。また、何かにつけて菅原道真の祟りを恐れて太宰府天満宮を建てたように、祟りを恐れて鎮魂を行ってきました。日本の歴史は怨霊と祟り抜きには理解できないとまで言われています。ところが、最近は医学の進歩により新生児の死亡率は低下し、平均寿命は伸び、戦争で亡くなる人もいなくなり、物質的にも豊かになって食料も有り余るほど十分手に入るようになりました。また、多くの物事も科学的に解明されてきて、祟りも気にしない人が増えてきました。

一方では、住宅事情も良くなって個室を持つようになり、マイカーに乗り、宴会でも皆で歌うことから個人のカラオケに変わり、多くのことを自分の思うまま個人で

行動できるようになってきました。その分、自己中心的になり、自分の存在も無意識に神や仏に近づいてきたような状態になっているように思います。自分が神なので神に祈る必要がないわけです。もちろん自分が神だとは思っていないでしょうが、そういう奢った気持ちになってきているのではないでしょうか。

神仏にすがらなくてもいいような生活ができていることは大変ありがたいことです。しかし、身の回りの草木にまでも神を見つけた我々の祖先の心を取り戻すのも、当面している二十一世紀の課題のひとつではないでしょうか。

どんど祭りについて

十四日または十五日に、正月のしめ飾りを焼くどんどまつり（とんどまつり）を行う慣わしがありますが、当社では、神社の注連飾りを焼く「どんど」を数年前から一般に拡大して実施して参りました。ちょうど十五日が祭日であったことから十五日に行って来ましたが、平成十二年から十五日が祭日ではなくなってしまいました。今年は例年通り十五日の土曜日に行いましたが、来年からは次の優先順に行うように変更させていただきます。すなわち

一、十五日が休祭日の場合は十五日に行う。

二、十五日が休祭日でないが、十四日が休祭日の場合は十四日に行う。

三、十四日も十五日も休祭日でない場合はそれより後の一番近い休日に行う。

このようにすると、来年は十四日（日）、十四年は十四日（月の祭日）、十五年は十九日（日）に行うことになります。時間は今まで通り午前十時から行います。

同時に古札焼却も行います。また、ぜんざいも用意していますので、どうぞお参りください。

境内の生物　⑤　カシノキ

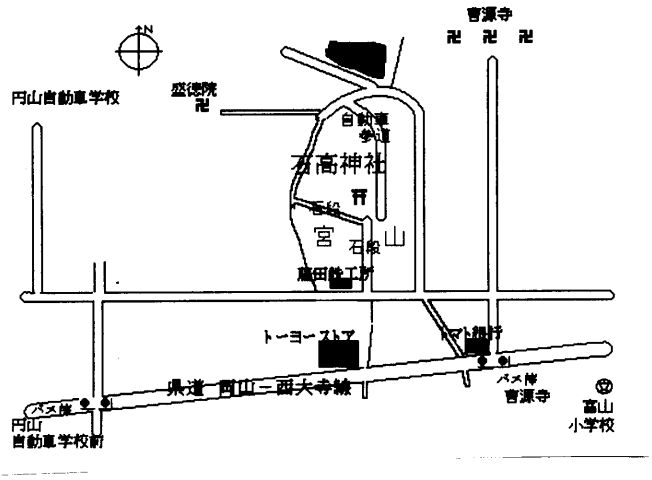
本殿西側の大きな木がカシノキです。幹周りは三メートルあり、かなりの古木です。県下で最も普通に見られるアラカシと思われます。アラカシの葉の先は急にとがって上半部に大型の鋸歯（ギザギザ）があり、葉の裏は

やや白みを帯びています。ドングリは、長さ一・五―二センチの楕円形で殻に横縞の環が六―七個あるもっともポピュラーなものです。拝殿西や隋身門東にもありますが、よく見ると葉の中にはシラカシのように細い形のものがあったり、背の低いどんぐりがあったりして、興味は尽きません。葉の表面によくウドンコ病の白紋がでています。十一月になると、落ちてくるどんぐりであたり一面どんぐりだらけになります。特に今年は多く、その数は一番大きな木だけでも数十万個は下らないと思います。

正月の行事のご案内

元旦の午前〇時から歳旦祭の祝詞奏上の後、参拝者の方々の新年祈祷を一時前まで行います。そして、午前九時ごろから新年祈祷（家内安全祈祷）や厄除けなどの各種ご祈祷を行います。また、正月三が日と一月中の学校が休みの日の午前中も厄除けのご祈祷を行います。皆様のお参りをお待ちしております。

神社周辺の地図を載せましたので、場所がわからない場合は参考にしてください。自動車で宮山の上まで上がれますが、南端まで行くと、回転できませんので、裏の方に駐車してください。



後記

二十一世紀の幕開けを記念して、今回は「二十一世紀に向けて」という拙文を載せて裏表印刷としました。また、この社報も載せたホームページも同時に作成しました。アドレスは http://plaza7.mbn.or.jp/~ishitaka/ です。